



Data

監督・脚本：板尾創路
原作：又吉直樹『火花』（文春文庫刊）
出演：菅田将暉／桐谷健太／木村文乃／川谷修士／三浦誠己／加藤諒／高橋努／日野陽仁／山崎樹範

👁️👁️ みどころ

お笑い芸人の小説が大ヒットし、芥川賞を受賞！そうすると今の時代、当然ドラマ化、映画化だが、さてその出来は？同業の板尾創路が監督しただけに、「笑い」に魅せられ、「現実」に阻まれ、「才能」に葛藤しながら、「夢」に向かって全力で生きる二人の10年間の青春物語は興味深い。

「あなたの夢をあきらめないで」と言うのは簡単だが、夢を実現するための才能は？努力は？また、それに対する世間の評価は？

68歳になった私たち団塊世代は既に「第2の人生」に入っているが、夢をあきらめた神谷と徳永の「第2の人生」は・・・？



■□■お笑い芸人が芥川賞を！その原作が早くも映画に！■□■

私はいつの頃からかテレビのお笑い番組を全然見なくなったが、自然に入ってくる情報から、又吉直樹という芸人の名前は知っていた。その又吉直樹が書いた『火花』と題する小説が発表されるや、その掲載誌「文學界」は驚異的な売り上げを記録。単行本、文庫本の売り上げは300万部を突破した。そして、彼は芸人として初めて第153回芥川賞を受賞する快挙を成し遂げたからビックリ！

新規ネタに敏感な私は、早速同書を購入。読んでみるとこれは予想通り、又吉の体験を基にしたいわゆる私小説。これがなかなか面白かった。主人公は、若手コンビ「スパークス」としてデビューするも、まったく芽が出ないお笑い芸人の徳永と、「あほんだら」というコンビで常識の枠からはみ出た漫才を披露する、天才芸人の神谷の2人。お笑い芸人として共に下積み生活を送りながら、互いに自分の人生を模索していく物語だ。

今や邦画はコミックものや純愛ものを中心とした「原作もの」が花盛り。すると、いずれこの小説も映画に。そう思っていると、テレビでのドラマ化を経て、この小説は早々に映画化が決定され、今般公開されることになった。本作の監督・脚本は、お笑い芸人ながら『板尾創路の脱獄王』（09年）（『シネマルーム24』178頁参照）を監督した板尾創路。また、火花製作委員会のトップには、吉本興業が並んでいる。そして、徳永を演じるのは若手ピカールの俳優・菅田将暉、神谷を演じるのは桐谷健太だ。さあ、本作の出来は・・・？

■中国語版も大ヒット！中国の若者たちの反応・関心は？■

日中を股にかけたバイリンガル作家・毛丹青氏（現在は神戸国際大教授）と2008年4月に知り合って以降、私は中国のノーベル賞作家、莫言氏との対談や彼の教え子たちとの交流等、さまざまな共同作業を続けてきた。今や、毛さんの活動領域は、「知日」や「在日本」の出版、有名小説の翻訳や各種メディアでの講座等々で飛躍的に広がっている。しかして、『火花』を中国語に翻訳し、その中国語版を今年6月に出版したのも彼だ。

同書の出版を記念して毛さんは中国と日本を股にかけた講演会を次々とこなしており、6月13日には上海で約400名の参加者を前に、お笑い文学の関係や日中の相互交流などについて講演した。また、6月27日にNHK「クローズアップ現代」で放映された、「“火花” 中国に行く～又吉が見た“90后”～」は大きな話題を呼んだ。

中国には「相声」という日本の「漫才」と同じような芸があるし、テレビではお笑い番組が花盛り。中国共産党が支配する中国では政治面での自由な発言は許されないが、芸能面での発言は自由。そのため、日本の漫画やアニメは昔から大人気だ。そんな状況下、又吉直樹が書いた小説『火花』の中国語版の人気は上々で大ヒット！しかして、『火花』にみる徳永や神谷の生き方について、中国の若者たちの反応・関心は・・・？

■若者が求めるものは理想、夢、才能！しかし現実は？■

本作のストーリーは、熱海の花火大会で徳永（菅田将暉）が先輩芸人・神谷（桐谷健太）の常識の枠からはみ出した漫才を聴いてその才能にホレ込み、突然「弟子にして下さい！」と申し出るところから始まっていく。神谷が相方の大林（三浦誠己）と一緒にやっている漫才を聴いたのは、徳永の相方・山下（川谷修士）も一緒だが、なぜ徳永だけがそんな反応をしたの？現在、上方落語協会の会長を務めている桂文枝師匠は今や大御所になったが、同世代の天才漫才師と言われた横山やすしは若くして死亡している。その死亡原因の1つが、酒・タバコ、女(?)をはじめとする破天荒でハチャメチャな生活ぶりであったことは明かだが、徳永がその才能にホレ込み、弟子入りを求めた神谷の天才ぶりはどうだったの？やすしの天才ぶりはその変人ぶりと共に周りの多くの人が認めていたようだが、神谷の才能を認めたのは徳永ひとりだけ？

小説を読んだ時もそこあたりのポイントが興味深かったが、実は小説を読んだ時私は

神谷の才能について正直よくわからなかった。しかし、同じお笑い芸人の板尾創路が監督をした本作を観ていると、神谷の変人ぶりと共に彼の天才ぶりがよくわかったので、なるほど、なるほど・・・。

徳永はスパークスのボケ担当、山下はスパークスのツッコミ担当で、2人は中学時代からの友人だが、2人とも自分たちの才能をどう考えているの？私の大学時代を考えてもわかることだが、分野こそ違え、若者が求めるのは、いつも理想、夢、才能。しかし、才能の有無は容易にわからないから、それに代わる自分に見えるものとして、努力に頼らざるをえないのが常だ。私の場合は幸い1年半の司法試験の勉強という努力によって弁護士への理想、夢を実現できたが、さて徳永の才能は？また、徳永の努力は・・・？

■□■なぜ、鹿谷がバカ売れに？世間の評価とは？■□■

今年は将棋の世界では14歳の藤井聡太四段の28連勝が、囲碁の世界では井山裕太が再び七冠に返り咲いたことが大ニュースになった。このように将棋や囲碁は100%実力の世界。また10月26日に行われたドラフト会議によって、早稲田実業高校の清宮幸太郎は日本ハムへ、広陵高校の中村奨成は広島へ、履正社高校の安田尚憲はロッテへ、それぞれの進路が決まったが、プロ野球の世界でも99%が実力の世界。私がいつも楽しみに観ている堺正章がオーナーを務める『THEカラオケバトル』では、ワケのわからない審査員が採点するのではなく、厳正で客観的な「カラオケマシン」が採点するから、そこでの勝ち負けはすべて実力だと割り切ることができる。しかし、お笑い芸人の世界では？女には「枕営業」があるが、男にはそれはない。しかし、それに代わるものやその他諸々の雑多な「実力以外」の要素は一体どれくらいあるの？

本作では、一生懸命頑張っているスパークスの2人がなかなか売れないのに対して、クドイ顔と女性的なキャラが人気のピン芸人・鹿谷（加藤諒）がバカ売れする姿が強調されるが、これは一体なぜ？私は、阪本順治監督の『エルネスト』（17年）を公開初日に鑑賞したが、残念ながら席はガラガラ。それに対して、『アウトレイジ 最終章』（17年）はほぼ満席になっていた。これを見て『エルネスト』は短期で打ち切られるなどしていると案の定・・・。このように映画の世界でも良作が必ずしもヒットするとは限らないのが実情。それが世間というわけだ。もちろん、それは弁護士の世界でも政治家の世界でも同じで、実力、能力才能と人気、評判、金儲けは必ずしも一致しないことが多い。もちろん、そんなことは天才肌の神谷も現在懸命に努力中の徳永もわかっているが、鹿谷のフィーバ一ぶりを横目に、2人はどうあがけばいいの・・・？

■□■2人の芸人の女関係は？このヒロインとはいつまで？■□■

落語家も芸人と言っていいはずだが、落語家の初代桂春団治の女関係は「浪速恋しくれ」の歌を聞くまでもなく、ハチャメチャで有名。これは大阪の芸人特有のものかもしれない

が、その「女の泣かせ方」はある意味、将棋の坂田三吉と小春の関係によく似ている。天才肌の男の生き方や仕事ぶりは破天荒だから、そんな女の女関係はおおむねハチャメチャ。相場はそう決まっているはずだが、真樹（木村文乃）と同棲している神谷の生活ぶりを見ると、これが極めてノーマルだからアレレ・・・？これは、原作者の又吉直樹が大阪出身の芸人であるにもかかわらず真面目な性格で、初代桂春団治や坂田三吉タイプとは正反対のため・・・？

本作に見る真樹はその「変顔」を見せることでそれなりの存在感を見せるが、本作では神谷と徳永との男同士の師弟関係に焦点を当てているため、2人の芸人の女関係についてはほとんど描いていない。きっと2人とも経済的には恵まれていないだろうから、そんな男に良い女が見つかる確率は本来少ない。しかし、それでもお笑い芸人の陣内智則と美人女優の藤原紀香が結婚した例もあるから、やり方次第では・・・？

ちなみに、神谷と徳永のつき合いにおいて、飯代はすべて神谷が負担していたようだが、2人がいつも行っているのは居酒屋クラスだからその金額はたかが知れたもの。それでも、神谷は借金で首が回らなくなったそうだから、神谷の生活の破天荒ぶりはきっと坂田三吉並みだったはずだ。したがって、そんな男にずっとこの真樹がついていくとは思えないが、さて、神谷の女関係は？そしてまた、本作では全く描かれていないが、徳永の女関係は・・・？

■□■あなたの「夢をあきらめる」潮時は？■□■

1982年に「待つわ」でデビューした女子大生デュオの1人岡村孝子は、私の大好きな歌手の1人。また、彼女のソロデビュー曲で1987年にヒットした『夢をあきらめないで』は、私のカラオケでの定番ソングの1つだ。この歌は彼女が結婚した巨人軍の石井琢朗選手の生きざまを見ながら作ったそうだが、「夢をあきらめる」潮時は難しい。今年の将棋界では藤井聡太四段フィーバーが席卷したが、奨励会では26歳までに四段になれば自動的に退会というルールが決まっているから、「夢をあきらめる」潮時は動かせない。しかし、芸術、スポーツ、芸人の分野ではそれが客観的に決まっていなかったから、あなたの「夢をあきらめる」潮時は難しい。ちなみに、10月12日に観た『ゴッホ 最期の手紙』（17年）では、「炎の画家」と呼ばれたゴッホの絵も生前中は1枚しか売れず、ゴッホは死後に有名になったようだ。

しかして、スパークスとして長い間頑張ってきた徳永も、ついに今日はコンビ解散の日。そこで、相手方の山下との掛け合いの中で徳永が見せる漫才はすごい。それまでは観客やスポンサーの目ばかり気にしていたのに、最後の最後のコンビ解散の日＝漫才師廃業の日となると、やっとそれから解放されたため、それらの目を気にすることなく、あるがままに自分の言いたいこと、自分の主張したいことをこの日の漫才にぶつけたから、その姿は鬼気迫るものになった。漫才はお笑いをとるもの。それが当たり前の常識だが、この日のスパークスの漫才が始まると、観客は一瞬シーン・・・。そんな中、徳永のヒステリック

な声が響き渡ると、観客はさらにシーン……。まさに会場は水を打ったようになったが、それは一体なぜ？そして、肝心の観客席からの笑いは……？

■□夢をあきらめたお笑い芸人の第2の人生は？■□

今年4月に愛光学園高校卒業後50周年として「68歳記念大会」を開催した私たち愛光9期生は、医者や弁護士等の自由業を除いてほとんどが定年退職し、それぞれ「第2の人生」を歩んでいる。私たち団塊世代は豊かさを追い求めた昭和のよき時代を経済成長と平和の中で生きてきたから、まだかろうじて維持できている年金や社会保障制度の中で「第2の人生」を順調に送っている人が多い。しかし、バブル経済の崩壊、リーマンショック等を経て、経済格差が広まった今の時代、夢を叶えられた若者はラッキーだが、神谷や徳永のように夢をあきらめた若者の「第2の人生」は……？

徳永のような若者は変わり身も早そうだから、スパークスの解散ライブを終えた彼が今スーツ・ネクタイ姿で不動産屋の仕事をしていても、それはそれなりに納得できる。しかし、徳永と連絡が取れなくなった後、破産宣告まで受けたと聞いた神谷の方は、芸人としての評判も一切聞くことはなかったから、ひょっとして彼には「第2の人生」はなかったの……？パンフレットにあるストーリーのまとめは、『笑い』に魅せられ、『現実』に阻まれ、『才能』に葛藤しながら、『夢』に向かって全力で生きる二人の10年間の青春物語とされている。たしかに、その10年間の青春物語は原作者の又吉直樹の体験を元にかけているから説得力があるが、その結末をどう受け止めればいいのか？



『火花』 画・王雅（2018. 5）

ちなみに、又吉直樹の『火花』の芥川賞受賞とその映画化に刺激を受けた天才・ビートたけしは、マジに直木賞を狙って自身初の恋愛小説『アナログ』を書き、現在好評発売中だ。その諷い文句は、『アウトレイジ』3部作とは違う、「凶暴なまでにピュア」というものだ。同じお笑い芸人でも、長い間底辺にいた又吉直樹と違って、ビートたけしは大成功した芸人だから、その体験に基づいてそこに描かれるピュアな恋物語は、ビートたけし特有のものになるはずだが、さて、あなたは本作に描かれた「笑い」「現実」「才能」「夢」についてどう考える……？

2017（平成29）年11月1日記